

児童発達支援センターどれみ 令和6年度 支援プログラム (児童発達支援)

作成年月日 令和7年1月15日

営業時間	9:00~17:00 (事業所開所時間) 集団療育: 10:00~12:45 14:00~15:00 15:30~16:30 個別 (保育・PT・OT・ST): 14:00~以降各1時間 17:00 終了		送迎について	子どもさんについて日々の健康状態など情報共有を大切にしているの で、基本は保護者送迎をお願いしています。(家庭のやむを得ない事情が ある時のみ送迎の利用が可能です)		
法人理念	だれもが 人として大切にされ地域で自分らしくいきるために私たちは利用者はじめだから信頼される支援を行い、安心して暮らせる地域社会の実現に貢献します。					
支援方針	私たちは、一人一人の命を大切に、より豊かな人生を送るために子どもたちに遊びを伝えます。					
支援内容						
クラス名	だるま (10:00~12:45)	仔牛 (10:00~12:45)	ぺんぎん (10:00~12:45)	りんご (14:00~15:00)	ワニワニ (15:30~16:30)	
本人 支援	健康 生活	睡眠・食事・排泄のリズムを把握し、本人のリズムに合わせて活動します。 生活動作を見せたり職員と一緒にやってみたり、基本的な生活動作を伝えます。	睡眠・食事・排泄のリズムが確立するよう、プログラムに沿った活動を促します。 本人ができる生活動作を見守り、難しい所は具体的動作などで支援をしていきます。	睡眠・食事・排泄のリズムを把握し、本人のリズムに合わせて活動します。 本人のできる生活動作を見守り、難しい所は具体的動作を本人と一緒に取り組みます。	生活リズムを整え、午後からも活動ができる体力をつけていきます。 身につけることができている生活動作を定着できるよう、時間をかけて丁寧に取り組みます。	生活リズムを整え、午後からも活動ができる体力をつけていきます。 その日の身体の調子に気がつけるように、活動などを通して促します。
	運動 感覚	砂場遊びや片栗粉遊びを通して、様々な感覚を経験していきます。 歩く・走るなどの基本動作が十分に発揮できる散歩や粗大運動遊びを中心に取り組みます。	感覚遊びを通し苦手な感覚や好きな感覚を本人がからだで感じることを促します。 活動に歩く・走る・跳ぶの基本動作を取り入れ様々な姿勢に対応できる身体を作ります。	砂場遊び・片栗粉遊びなどの手を使った遊びを中心に、好きな感覚を十分に取り入れます。 時間をかけて歩く・走る・跳ぶの基本動作を取り入れ様々な姿勢に対応できる身体を作ります。	歩く・走る・跳ぶ・止まるを遊び (トランポリンなど) の中で経験し、椅子に座って活動する等生活を楽しめる身体づくりをします。 個別で好きな感覚を十分に楽しむ機会を作ります。	歩く・走る・跳ぶ・止まるを遊び (トランポリン等) の中で経験し、椅子に座って活動するなど生活を楽しめる身体づくりをします。 また、ボディイメージの確立ができるように支援します。
	認知	「触る・見る・聞く・味わう・傾く・まわる」といった体験を十分に重ね、生活の中にあるも	感覚を刺激する様々な遊びの体験を十分に重ね、身体を使って知る経験を重ねます。また、自	「触る・見る・聞く・味わう・傾く・まわる」といった体験を十分に重ねられるよう、感覚遊	いつもと同じスケジュールで過ごす中で、時間の流れを意識できるよう支援します。砂場遊び	いつもと同じスケジュールで過ごす中で、時間を意識して生活できるよう支援します。ルール

児童発達支援センターどれみ 令和6年度 支援プログラム (児童発達支援)

作成年月日 令和7年1月15日

<p>行動</p>	<p>のごとを知る経験を重ねます。支援者との遊びや生活を通して、生活に関わる物の扱い方を見たり、経験をしたりする支援を行います。</p>	<p>身の感情に気づく経験を重ねます。支援者との遊びや生活を通して、道具の扱い方を見て、経験をしたりする支援を行います。</p>	<p>びや生活場面を丁寧に送ることができるよう支援をします。支援者との遊びや生活を通して、生活に関わる物の扱い方を見たり、経験をしたりする支援を行います。</p>	<p>や色水遊びなどを通して、色の概念や数量の概念の形成を支援します。同年代他児との遊びを通して、知ることの喜びを後押しし、もっとやってみたいという意欲を育てます。</p>	<p>のある遊びを通して、色の概念や数量の概念の形成を支援します。同年代他児との遊びを通して、知ることの喜びを後押しし、もっとやってみたいという意欲を育てます。</p>
<p>言語コミュニケーション</p>	<p>絵本（もこもこ・だるまさんが）やふれあい遊びを通して、言葉の基礎となる、ことばや音に気がつく経験を重ねます。職員と一緒に活動する中で三項関係を築き、共感される経験を重ねます。粗大運動を通して、楽にお話ができる身体づくりしていきます。</p>	<p>絵本（仔牛の春・おいしいおと）や各活動を通して、たくさんしたことばに触れる経験を重ねます。職員と一緒に活動する中で、多くの表現に触れ、共感される経験を重ね、自身の気持ちに気がつくことを促します。身体づくりを通して、本人からの表出・表現を促します。</p>	<p>絵本（もこもこ・だるまさんが）やふれあい遊びを通して、言葉の基礎となる、ことばや音に気がつく経験を重ねます。職員と一緒に活動する中で三項関係を築き、共感される経験を重ねます。粗大運動を通して、楽にお話ができる身体づくりをしていきます。</p>	<p>絵本（りんごかもしれない・ワニワニの〇〇）や各活動を通して、多くのことばに触れる経験を重ね、ことば遊びの世界でも楽しめる力をつけます。他児との関わりの中で「気持ち」など目に見えないものを表現する力を養います。</p>	<p>絵本（りんごかもしれない・ワニワニの〇〇）や各活動を通して、多くのことばに触れことば遊びの世界でも楽しめる力をつけます。他児との関わりの中で「気持ち」を表現する経験を重ね他者と上手に関われるよう支援をしていきます。</p>
<p>人間関係 社会性</p>	<p>環境に配慮された場で職員と一緒に活動する経験を重ね、安心感を持ち他者と関わる経験を重ねられるよう支援します。一人遊びの時期を大切に考え、十分に遊びが経験できるよう、発達特性に配慮された、おもちゃなどを使用していきます。</p>	<p>職員や他児と一緒に活動する経験を重ね、安心感を持ちながら集団での生活を経験していきます。集団活動を通して、一人遊びから並行あそびへ移行を促し、他者を意識しながら生活ができる基礎を育てます。また、鯉のぼり制作など季節を感じる活動も重ねていきます。</p>	<p>環境に配慮された場で職員と一緒に活動する経験を重ね、安心感を持ち他者と関わる経験を重ねられるよう支援します。一人遊びの時期を大切に考え、十分に遊びが経験できるよう、発達特性に配慮された、おもちゃなどを使用していきます。</p>	<p>集団活動を通して、並行あそびから連合あそび(ブロック遊びなど)へ移行し、大人や他児と共に活動できるよう支援します。季節ごとの遊びを通じて他者と一緒に活動することで得られる達成感など、感情の動きに気がつき、表現し、他者とのより良い関わりができるよう支援していきます。</p>	<p>集団活動を通して大人や他児と活動する連合あそび(ブロック遊びなど)を重ね、ルールのある遊びを経験していきます。他者と一緒に活動することで得られる達成感や自身の感情の動きに気がつき、表現し、他者とのより良い関わりができるよう支援していきます。</p>

児童発達支援センターどれみ 令和6年度 支援プログラム (児童発達支援)

作成年月日 令和7年1月15日

共通項目	
地域連携 地域支援	名張市の母子保健事業・子ども発達支援センターとの協働をはじめて15年以上経過しています。名張市より個別乳幼児特別支援事業の一部事業委託を受け、児童発達支援センターとして、地域の保育所・こども園・幼稚園等の子どもさんの日常生活拠点として長く過ごす場の先生方と協働して(園への巡回・見学受け入れ・計画書作成会議への参画等)子どもさんの支援にあたっています。必要に応じて、医療機関等とも連携し多角的な視点で子どもさんの成長を支えることができるようにしています。
移行支援	基本的には並行通園の方が多くですが、乳児期から利用されている方には地域の保育所等への移行の際には、名張市の関係機関と連携し会議を開き、入園前には見学に来ていただき、支援の要点などをお伝えしています。また、療育を利用する前のクラスとして「びゅあるーむ」を月1回実施し、参画する保護者の方の就園についての相談等を受け付けています。
家族支援	令和6年度よりペアレントトレーニングを開始しております。専門の講師を招いて実施しております。また、年2回たんぼぼ広場の開催を実施しております。保護者と子どもたちが一緒に参加する広場です。各回、子どもさんと生活する中で役立つ情報や親子でできるあそびの紹介をしています。毎月1週間母子通園週間を設けています。その際に子どもさんの普段の姿を通して、保育士など療育に従事する職員への質問を受け付けており、個別でお答えできるように対応しています。
職員の質の向上	毎月1回保育士については子どもの発達についての研修を実施しています。医療専門職については、県立病院とも連携し実地研修への派遣をしております。 虐待防止研修・衛生についての研修・防災研修等、子どもさんをお預かりするにあたり、安全に配慮した運営ができるよう研修を実施しております。
主な行事等	保護者通園週間(毎月1週間)・たんぼぼ広場・冬のお楽しみ会・つぼみ展 (子どもさんたちの特性に配慮し日常生活を大切にする観点から、当センターでは大きな行事ごとについてはできるだけ少なく開催するようにしています)

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達支援センターどれみ					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	・利用定員が全員集団ではなく、セラピーや個別対応の利用児枠を設けている。	現在の支援を継続できるようにしていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	4	・個別対応や環境調整を実施して、対応している。 ・その日の利用児の特性を踏まえて職員配置を行う。	・4対1という基準を満たしていることと子どもたちに必要な支援ができることは別なもので、必要な支援ができる配置をしたい。 ・クラス等の調整も視野に適切な配置ができるよう検討していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	・無駄な装飾はしないようにしている。 ・視覚的な支援、見える化ができる子どもも見通しをもって生活できるのではと思う。	現在の支援を継続できるようにしていく部分と、視覚支援を一部取り入れる検討をしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	・子どもの人数や特性に合わせて活動を決定している。	・4階は活動の部屋と食事の部屋が同じであるため、今後検討していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	急な発熱時などだけではなく、子どもの情緒的な状況によっては対応ができるようにしている。	現在の支援を継続していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	・PDCA表を用いて、個別支援・モニタリング会議をしている。	現在の支援を継続していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	・集計後に共有することをしている。	毎年度、年度計画を立てる際には内容を盛り込めるよう事業所内の内容を調整している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	・会議等実施しているが、療育に入るなどで個別で把握する時間は設けられていない。	会議や各保育案などを通して、職員の意見を把握できるよう調整していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	8	・外部評価は実施していない。	今後実施を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	・虐待防止委員会の取り組みの中に研修の周知を入れている。	現在の支援を継続していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	今年度は7年2月に予定している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	・面談実施時に聞き取ったニーズを計画書に入れている。	現在の支援を継続していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	・個別支援、モニタリング会議を現場職員で行っている。 ・支援計画の内容を把握できていない職員もいると思う。先月から児童発達職員みんな個別支援会議とモニタリング会議を行うようになったのでこれから改善されるようになるのではないかなと思う。	年度途中で改善されたところがあるので、継続して全員が参加できるように調整していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	・必要があればその都度変更している。	必要に応じて今後も実施していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	・利用児に必要な感覚あそびの中で支援内容を設定している。 ・月1回検討するための研修を実施しています。	・まだガイドラインの内容を追うのに精一杯の状況であり、現在のやり方をもう少し継続する必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	保育案を作成するにあたり、各職員分担して作成したのち、療育に関わる職員で把握できるようにしている。	・毎年同じような内容になっている部分もあるので来年度の計画をする際に改めて考えたいと思う。 ・ただ、子どもたちの特性においては変化のない所も十分残す必要があると考えている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別・集団共に子どもの特性をみてクラス編成を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	・ホワイトボードを使用して可視化している。記録に残し、ファイリングをして他職員が見られるようにしている。	現在の支援を継続していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	・翌朝の全体職員会議で報告をすることで情報共有をしている。 ・日によるが、スタッフが集まる時間がとりにくい。	ヒヤリハットや事故等は特に何らかの方法で情報共有がなされるよう、今後も工夫をしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	・子どもの様子の変化等に気付くまたは振り返られるようにしている。 ・記録等はデータ化し、情報共有しやすくできればと思う。療育・相談・訪問の情報がそれぞればらばらなので、一元化してデータ管理できると良い。それにより集まるのが難しくても、情報が周知しやすいと思う。	ICT化も含め、情報共有の在り方については、調整を検討していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	・児発管が療育の現場に入りモニタリングを行った上で、支援計画書の作成をしている。	現在の支援を継続していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	・児発管が参加している。サービス担当者会議日を早めに教えてもらい、準備しておく。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	・利用児の状態に合わせた各機関関係者と連携をとる。 ・病院関係者とは直接やりとりができるようになったらいいと思う。	・各関係機関との連携については関係機関の特性も含め、どのような連携のあり方が良いのか模索していく必要がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	・保育所等訪問支援事業と連携して行っている。	現在の支援を継続していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	・保育所等訪問支援事業と連携して行っている。	現在の支援を継続していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			・法人内のこども園と交換研修を実施している。	現在の支援を継続していく。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	7	1		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6	1	・管理者が参加している。 ・わからない。	現在の支援を継続していくが、事業所の機能特性上すべての職員が他機関との関わり等を十分にされていないところもあるので、事業所内でも周知していく。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			該当なし	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	5	・交換研修が中止になったので、また機会があれば行ってみたい。	・今のところ交流したことがないので、その機会が増えると良い。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0		現在の支援を継続していく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	・人数を決めて実施している。	令和6年より実施している為、次年度も継続しての実施をしていけるよう調整していく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	・新規や継続更新時にその都度紙を用いて説明している。	現在の支援を継続していく部分と、より丁寧な、実施のために必要に応じて家庭とも十分に理解を得ながらの実施をしていきたいと考えている。	
36	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	・できるだけ対面にて手渡しで説明できるようにしているが、お会いできない場合は計画書を利用児のカバンに入れ持ち帰ってもらい、電話で説明する。		

保護者への説明等	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	・他事業とも連携して保護者の情報交換をしている。 ・十分であるとは言えないため、もっと自己研鑽に励みたい。	
	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2	・職員によっては内容を十分に把握できていないイベント等があるので、再度年度当初に計画を実施する際に周知をしていきたい。	
	39	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	1	・適時対応はできるようにはしている。	・対応が遅れてしまっていることもあるように思う。上司への報告・相談のタイミングで遅れてしまうことがあるが、必要に応じて現場の職員で迅速かつ適切に対応できるようにしたい。
	40	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	・どれみ通信や法人からの手紙をお渡ししている。	現在実施している方法を継続していく。
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	書類については保管庫で保存している。	
	42	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0		
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	・育成会の行事が担っている。	行事については、利用児が参加しやすいように事前に調整するなど対応している。
非常時等の対応	44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	・職員には周知や研修等を行っている。	月1回の防災訓練（火災・地震等）を実施している。現在の訓練等を継続して実施しいざという際に対応ができるようにしていく。
	45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	・地震、火事の発生の変化を付けて行う。	
	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	・新規面談時に行う。	新規面談時に把握するほか、利用途中で発症等があった際には医師の指示書を頂いてから対応する等、子どもさんの命が守られるよう対応している。
	47	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	・担当者を通し、二重、三重のチェックをしている。	
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		今年度より安全計画を作成して対応ができています。
	49	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0		年2回保護者参加型で避難訓練等について対応ができています。
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	・事業所内で月1回ヒヤリハット会議にて検討を実施している。	今後も現在の方法を継続していく。
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	・事業所内で月1回虐待防止研修にて検討を実施している。	今後も現在の方法を継続していく。
52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0	・座位保持いすの使用について記載している。	今後も現在の方法を継続していく。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 名張育成会 児童発達支援センターどれみ		
○保護者評価実施期間	R6年 4月 1日		～ R6年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	162	(回答者数) 55
○従業者評価実施期間	R6年 4月 1日		～ R6年 12月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	R6年 4月 1日		～ R6年 12月 13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業開始をして13年目になり、地域の保育所・こども園・幼稚園・小学校・特別支援学校等の関係機関にはある程度事業についてご理解を頂いたうえで訪問ができている現状がある。	これまで重ねてきた支援があって、各関係機関に受け入れていただいているという意識を持ち仕事をしている。そのため各方面に対してできるだけ途切れることなく、支援ができるよう回数を重ねていけるようにしている。	現在の支援を引継ぎ継続していくことに尽きるかと思いません。
2	多職種での訪問を実施している。その際にはそれぞれの視点で子どもの姿を観察することができている。	子どもたちの発達について実際の保育の場面・教育での場面を共有し、意識的に具体的に伝えられるよう訪問の現地でもすり合わせるなどしている。	今後はより現場の先生方と共有できるような、資料を作成する等工夫をしていきます。
3	センターとして訪問しているので、児童発達支援・相談など子どもたちを支える多機能で情報を収集して、子どもたちの生活支援の場で役立てていただける情報などを共有ができています。	療育の場面を実際に見たり、療育に時には入って子どもと実際に関わったうえで訪問支援を行うこともある。	現在の支援を引継ぎ継続していくことに尽きるかと思いません。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問について、職員配置上1学期に1回程度の訪問にとどまっている。	多職種での訪問を重視するため、日程調整が難しいことがある。契約数が多いので、まんべんなくという点で行くと学期毎に1回という事になってしまう。	学期ごとにスケジュールを先行して組んでしまうなど、予定の組み方を工夫してみる。より丁寧な支援を実施するため、契約についても一部見直しを検討する必要がある。
2	各訪問を丁寧にしていきたいところもあり、保護者へのフィードバックまでに時間を要してしまうことがあった。	報酬改定に伴う、連携の仕組みの変更などシステムに乗り切れずに始まってしまった感があった。年度途中でも調整が難しく感じていた。	次年度についてはあらかじめ訪問や契約に関わる日程を早期に決定して実施していけるようにしていきたい。
3	より良いフィードバックに繋げるための、資料等が準備ができていない。	現段階でも訪問先の評価が著しく低いわけではないが、多様な訪問先がある中である程度可視化したものを作成する必要があると考えている。	現在、書式について検討しており出来次第活用していきたいと考えています。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援センターどれみ

公表日 R7 年 2月 15日

利用児童数 R7 年 12 月 15 日 回収数 36

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	32	3	0	0	・人数に対して、お部屋は広々としてい ると思う。	ご家族の方を不安にさせてしまい申し 訳ありません。職員の急な病欠等で至ら ない点があったかと思えます。今後は都 度配置が調整できるところはさせてい たたくようにします。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	26	6	0	3	・配置数に関して先生を気の毒に思うこ とがある。 ・たまに先生が少なくて大変だと思 う。	施設環境については都度職員が整備等 させていたと思いますが、既存の建物 を使用している施設のため一部改修が 難しい箇所もあり、ご不便をおかけ している所があるかと思えます。申し 訳ありません。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	33	1	1	0		施設環境については都度職員が整備等 させていたと思いますが、既存の建物 を使用している施設のため一部改修が 難しい箇所もあり、ご不便をおかけ している所があるかと思えます。申し 訳ありません。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	35	0	0	0		施設環境については都度職員が整備等 させていたと思いますが、既存の建物 を使用している施設のため一部改修が 難しい箇所もあり、ご不便をおかけ している所があるかと思えます。申し 訳ありません。	
適 切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	33	1	1	0	・計画を作るの遅すぎる。	計画をお渡しするのが遅れてしまい申 し訳ありません。各担当職員が確認し てお渡しするようにしている為一部 計画書のご説明に時間がかかってしま ってしまいました。今後はこのプロセ スも見直しできるだけ早くお手元に 届けられるように致します。 また、子どもさんの支援に返せるよ うにしています。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	29	3	0	3		ガイドライン実施以降の説明が一部不 足していた箇所があるかと思えます。 申し訳ありません。今後は分かりやす く提示できるように工夫をさせていただきます。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思 いますか。	33	0	0	1		年間を通して実施する活動と季節ご とに変えるプログラムがあります。利 用される皆さんに分かりやすく提示 できるように検討させていただきます。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支 援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体 的な支援内容が設定されていると思いますか。	22	6	0	7		・計画が遅いからその時どんな支援か分 からない。	都度、計画を見直しているためお渡 しする機会を逸してしまっただけだ と思われま。申し訳ありません。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	33	0	0	1			
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思います か。	22	6	0	7			
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと 活動する機会がありますか。	該当なし（並行通園児・就園年齢に達していないため）						
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	33	1	1	0	・時間をかけて説明してもらえた。 ・ごはん代を保育園でも払っていて、2 重に取られているので負担が大きい。 なんとかして欲しい。	申し訳ありません。費用負担につ いては、保育所とは異なる施設とな りますのでお支払い頂くこととなり ます。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	34	0	0	1			
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	35	0	0	0	・ファミリーミーティングで他のお母 さんたちの思いや考えを知り、自分 の悩みを話すこともできたので良 かった。 ・月に1回保護者通園があり、セン ターでの様子が見れるのがありが たい。	保護者の皆さんができるだけ参加し て頂けるように日程の調整をさせて いただいております。今後もご参加 いただけますと、職員も子どもさん の様子を知る良い機会となり、より 良い療育に繋がっていくと考えて おります。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達 の状況について共通理解ができていると思いますか。	30	4	1	0	・毎回、その日の様子を細かく教 えていただいている。 ・送迎を祖母にお願いしているので 中々直接お話できないが、先日お 帳面に急に突進していくことにつ いて、口頭と文面で説明していただ き、また1つ本児について理解す ることができてよかった。ありが とございます。	保護者の皆さんと中々お会いでき ない時もありますが、できるだけ 丁寧に取り組みを重ね、育児を支 援することができればと思ってい ます。また、お声を挙げていただ いたにも関わらず、適切に対応が 来ていなかった旨をお知らせいた だき、お力になれなかった点申し 訳ありません。日々の療育での気 付きの中で、職員間の連携を進め 、このような思いをされることな いよう対応に努めます。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	32	2	2	0	・悩んだ時相談しても何も得られ なかった。それ以来不審にしか思 えなかった。		
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	32	2	2	0				

す	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	27	4	2	3		保護者会という形で活動が実施されていない所ではありますが、皆さんの日頃の思い等が繋げられるよう、企画を検討させていただきます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	32	2	1	1	・気になることがあれば、相談させてもらい、丁寧に対応していただいている。	ありがとうございます。今後も子どもさんの姿を通して、保護者の皆様の困りごと等に対応させていただくようにします。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	32	2	1	1	・配慮されていないことがあった。	子どもさんの様子について、一部配慮が足りないところのご指摘について申し訳ありませんでした。以後気を付けてまいります
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	31	4	1	0		ブログ等で発信させていただいております。日々の療育に中々ご覧いただけない所もあるかと思えます。参考にして頂けたらと思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	35	1	0	0		今後も個人情報の取り扱いについて注意してまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	31	1	1	3		今後も保護者の方に参加して頂くような避難訓練や、安全についての情報を提供できるように定期的の実施してまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	30	2	0	1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	31	1	1	3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31	1	1	3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	33	2	1	0	・毎回、通所やセラピーへ行く事を楽しみにし、園のカバンは持たないのにどれみのカバンは自ら持って行く！ ・先生方みなさんの関わりのおかげでのびのび遊んだり療育に参加することが出来ている。	どの子どもさんにとっても安心できる場を提供できるように、環境調整等を今後も丁寧にさせていただくように致します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	33	2	1	0	・だいぶ慣れてきたが、センターの話をすると元気がなくなる時もあり、もう少し時間が必要なかなと思っている。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	33	2	1	0	・療育を通して、とても子どもが成長し、できることが増えた。先生方が優しく、丁寧に子どもと接して下さるのでありがたいと思っている。 ・大変満足している。分からない事だらけの子育て、発達過程、関わり、行動の理由等何もかも適格に教えてもらい納得して関わられた。本当にありがたい存在だと思っている。 ・楽しく過ごせるように対応していただいている。 ・コードモンで気軽に相談できる様になるとよい。	コードモンの活用については、今後も検討するところです。相談については内容にもよりますができるだけ様々な形でお受けできるように検討させていただきます。 なにより、子どもさんにとって安心できる場所、保護者の方にとって安心して通っていたる場を提供できるよう今後も職員一同で療育の場を作っていきます。